「五街道の道しるべを巡り歩く」シリーズマップ

藤井寺市域及び周辺には、東高野街道・長尾街道・古市街道・巡礼街道・竹内街道と東西・南北に古くからの道が通っています。江戸時代にはこれらの街道を利用して、寺社参詣や商いなどで多くの人が行き交いました。移動されているものも多くありますが、街道の要所には、道標（道しるべ）が建てられています。藤井寺市域の街道沿いを中心に、道標（道しるべ）を探しながら散策してみませんか。

※マップ内の古１ 古１ 等のラベルは本文中の写真撮影地点の番号です。

Copyright2013 藤井寺市観光ボランティアの会

32. 五街道の道しるべを巡り歩く　その三「**古市街道（大坂街道）**」後編

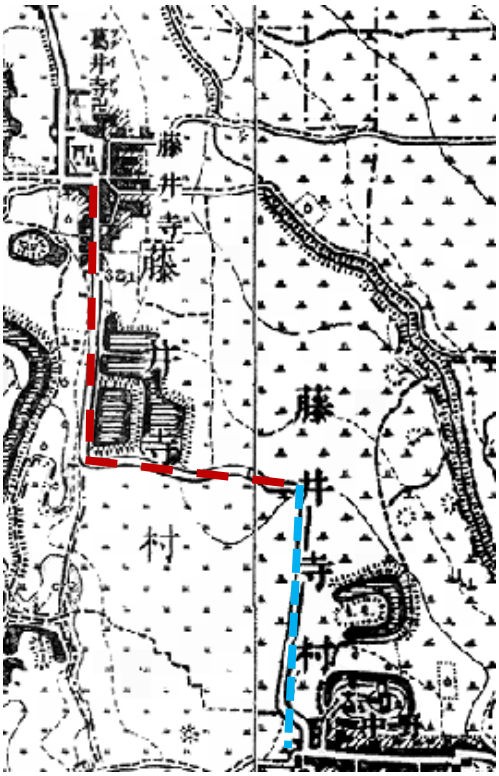
西国三十三所第五番札所として古くから知られた葛井寺の参道エリアで、現在も沿道には木造の日本家屋等の歴史的なまちなみが残っています。灯籠をイメージした街灯も2020年７月に設置。

街灯（昼間）

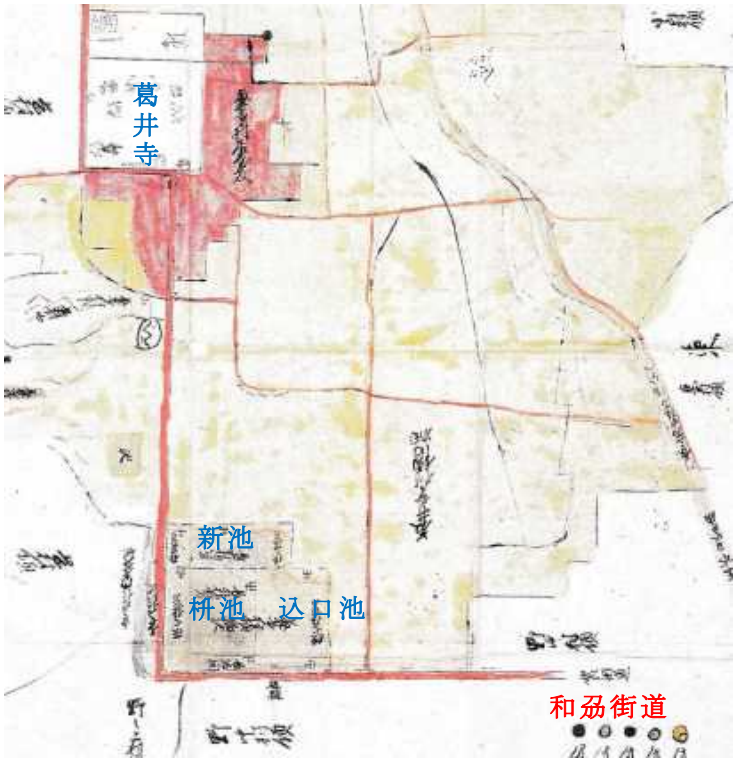
古１４

街灯（夜間）　藤井寺市 HP より

この先、野中まで道標はありません。然し、昔の道がほぼ残っており雰囲気は様変わりしていますが、昔の景色（ほとんど田畑？）を想像しながら歩くのも良いのではないでしょうか・・・



明治 41 年（1908）則図



河州丹南郡葛井寺村絵図・宝暦 8 年（1758）

南大門から南に進むと、左手に生涯学習センター（アイセルシュラホール）が建てられ（1994）、突当りを東へ進むと藤井寺南小学校が建っていますが、元は「三ツ池」と呼ばれた溜池が有った場所です。新池の一部を除き埋立られて当時の姿を想像するのは難しいかも分かりません。

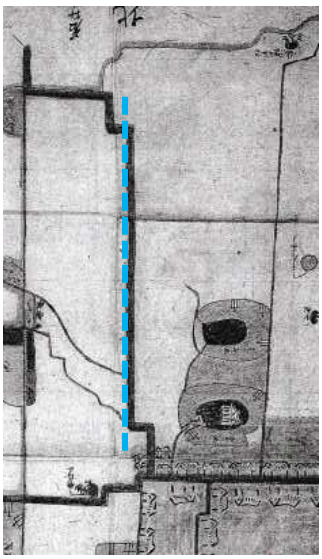
絵図の東南端に和劔（州）街道と書かれており、竹内街道へ続くことを指しています。

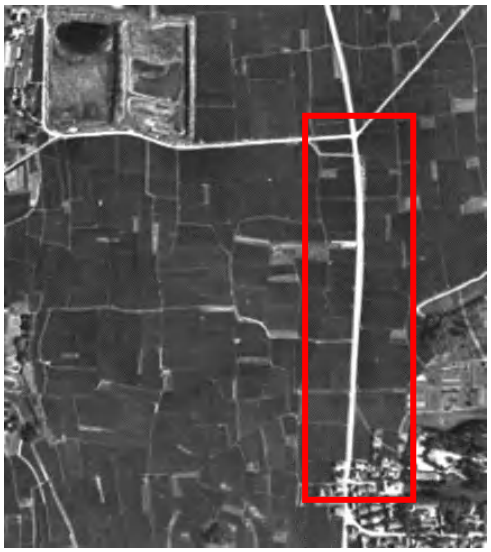
余談　三ツ池の変遷を写真で見てみると下記の状況です。　国土地理院航空写真

1946/06/06(昭 21)　1961/05/30(昭 36)　1971/05/09(昭 46)　2021/06/10(令 3) 古１５

明治 41 年から昭和 36 年までの間変化は見られませんが、高度経済成長期（1955～1973）に大きな変化が見られ、農業をする人がだんだん少なくなり、住宅の増加で、桝池と込口池は、住宅地と小学校になっています。藤井寺市立南小学校は 1968(昭和 43)年に全校舎が完成し、アイセルシュラホールは 1994（平成 6）年に建てられ、新池の一部が埋め立てられ現在に至っています。

現在の藤ケ丘 2 丁目～野中 3 丁目の間の道路は戦時中予備滑走路として設定されていました。





南区間

古１６

野中村領内惣絵図　1948/09/01(昭 23)　国土地理院　予備滑走路位置図「河内どんこう」

昭和 13 年に開通したこの道路は周辺の農地と溜池の間を 11m の幅で貫通していたが、滑走路化のために沿道の両側 10m の離着陸の支障になる工作物を、強制撤去して線形を直線に変え、飛行機重量に耐えられるように地盤を固める工事をしました。　「河内どんこう」より

また、はさみ山遺跡が、藤井寺市の藤井寺公団・野中・藤ケ丘一帯に広がっており、羽曳野丘陵の裾野に広がる段丘に立地しています。昭和 61（1986）年の発掘調調査では、後期旧石器時代（3 万年～1 万 3 千年前）の住居居構造が明らかになり、楕円形状の土坑もみつかっており、この地点が当時近鉄バファローズの梨田昌孝保捕手の住宅建設予定地であったため、「はさみ山遺跡梨田田地点」と呼ばれています。 古１７

野中に入り東へと進む。南から来る巡礼街道と合流し重複します。

北面・正面	西面・右側	東面・左側	南面・裏面
右　ふぢゐ寺　大坂 左　さかい　いつみ	左　つぼ坂　吉野	慶応元乙丑年六月十七日往生 俗名　朝田伴次郎	あらたのし　月もろともに西のかた さして我身も行とおもへば 釈了空

古１８

⑦　この道標は、順礼街道と下田道が分岐する地点にあり、慶応元（1865）年に没した朝田伴次郎（釈了空）の供養として造立されたもので、南面には辞世の和歌が刻まれています。

さらに 100mほど東へ進みます。この三叉路右（南）から来る巡礼街道との合流（分岐）部分です。この巡礼街道は「別ルート」との解説（羽曳野市史）があり、本線は西側に足跡も残っており、二つのルートがあったようです。　詳しくは「順礼街道」で。

古１９

西から

東から

西面
西　右　まきの尾　金剛山　高野山
左　つぼ坂　はせ　よしの　伊勢　道

北面
北　嘉永第六癸丑年仲春
林猪十郎正路建篤

東面
東　寿久婦ぢ井寺左海大坂道
すぐふぢいでらさかいおおさかみち

南面
南　左ふじゐ寺佐可以大坂道
ふじいでらさかいおおさかみち

⑧　「順礼街道と下田道が重複する部分の東端の三叉路の東南角にある道標で、上部に方位を入れる。東面と南面は建物に密着しているので、刻銘の有無や内容は不明である。この道標は野中村の庄屋、林猪十郎正路が嘉永 6（1853）年 2 月に、ひろく沿道の諸霊場への案内のために造立したものである。内容は豊富であるが、文字は細く小ぶりである。」

上記解説文（羽曳野市史）にあるように、東面・南面は建物に密着していて内容は不明であったが、2014 年に建物が撤去され刻銘が判読できるようになっています。当時の状況は下記の通りです。

2013.06　古１９

西面

北面

東面

南面

この道標から更に東（道標には、つぼさか・はせ・よしの・伊勢道と刻まれている）へ進んで行き、右手に野中古墳が家屋の隙間から垣間見え、やがて羽曳野市役所横の信号にでます。

奥の樹木が野中古墳　古２０

羽曳野市役所まえ信号　古２１

信号を渡り、少し細くなる道を東へと進むと誉田八幡宮の南大門前に達します。南大門手前は現在住宅が建っているが、かつては酒造業を営んでいた土屋家の主屋・納屋・酒蔵が建ち並んでいました。

2015.11　古２２　2023.03

敷地は街道（大坂道）の北側にあり、間口 30 間余り、奥行 15 間余りを占めます。主家は街道に面して西寄りに建ち、左手は座敷庭で土塀で囲い、右手は納屋・酒蔵が建ち並んでいました。

2015.11　2015.11　2015.11

2017.03 に羽曳野市による発掘調査が行われており、古墳時代から江戸時代までの生活跡、またそれに伴う日用品などが発見されています。なほ、遺跡名は上堂遺跡といわれています。

2017. 03　発掘調査状況

誉田八幡宮南大門　古２３　南大門軒丸瓦（葵の紋）

誉田八幡宮の南大門を過ぎると、三叉路に出ます。ここで北から来る東高野街道と合流し、Ｔ字路を右折し、東高野街道と重複しながら南へ進みます。

古２４

西面	南面	東面
右　いせみち	左　ふぢ井寺　大坂 道　ふぢ井寺　大坂	文化二年丑八月 右　道明寺　玉手山

⑨　東高野街道に古市街道が直交する地点の北西隅にある。文化二（1805）年八月に造立されたもので、南面と東面は東高野街道を北上してきた旅人を対象にしており、西面は、古市の蓑の辻で竹内街道に入ると、伊勢へ通じることを示しています。（東高野街道と同じものです）

右⑩と左⑪が並んでいる。

正面・西面	北面・左側	東面・裏	南面・右側
右　大峯山　つぼさか たるま	すぐ　大峰道	元発起人　善吉 傳蔵　与三郎 喜兵衛	再発起人　井筒組

⑩　前述の道標の斜め向かいにある道標で、大峯山参詣が盛んになった江戸時代末期以降に、地元の有志たちの二度にわたる発起により造立されたものと考えられます。西面は野中方面より来た参詣者のための案内で、古市で竹内街道（大峰道）に入ることを示しています。
（東高野街道と同じものです）

北面	西面	南面	東面
柏原　大阪方面	藤井寺　大阪方面	富田林　長野方面	大阪府

古２４

⑪　東高野街道と古都街道が合流する三叉路に、⑩の道標とともに並んで立っています。造立年代は不明だが、刻銘に「大阪府」とあるので、堺県が大阪府に合併した明治 14（1881）年以降のものです。　（東高野街道と同じものです）

大坂街道と合流しさらに南進すると、旧 170 号線との信号角に常夜燈が立っています。

常夜燈の横に、「河内名所図会・誉田例祭、車樂（だんじり）」のカラー化した説明板。

古２５

近鉄電車の踏切を越え、50mほど行くと左側フェンスに怪しげな枠だけがあります。古市代官屋敷址、現在は羽曳野市が作成掲示していた表示板も撤去されています。残念。

表示板の説明内容　（2013.04）　古２６

「江戸時代古市は竹内街道（大和街道）と東高野街道（京街道）が交差し、石川水運の剣先船（長さ約 13 ㍍の浅瀬用の運送船）や石川の野通し船（渡し船）の船着場などがあり水陸交通の要地として非常に大切な地であった。このため江戸時代中期以降、古市村と誉田村の中間にあ

たるこの地に「上方代官所」を設け、古市は天領（幕府直轄地）として支配された。幕末には十津川で捕らえられた天誅組河内勢の志士たちの厳しい取調べもここで行われた。」

さらに南進すると、突き当りの状態に道路がなります。左に曲がると直ぐに右へ曲がり町中にクランク道路が出現し誉田から古市に入ります。

Google Earth Pro 転載　古２７

誉田村の旧絵図　天保八（1837）模写

集落の出入り口付近で直角に曲がっている。近世城下町と同様な、防御への配慮があったものと思われます。

やがて左手に「西琳寺」へ向かう道が見えそちらに向かうと、西琳寺の門が見えてきます。

西琳寺　古２８

西琳寺出土鴟尾（しび）

寺院や宮殿の主要な建物の棟の両端に取り付ける飾り。金堂の屋根を飾っていたと考えられる。

高さ１．３ｍ

古２９

陵南の森公民館の歴史資料室で展示

正面・西面	南面・右側	北面・左側
右　上ノ太子　弘川寺　西行古跡 たゑま　つぼ坂　大峯山上	左　大坂　さかい　道	文化十癸酉三月建立　銀治 菊治 綿新

古２８

⑫　文化十（1813）年三月に、西琳寺の門前に立てられた道標で、参詣者に対して竹内街道および付近の霊場・古跡を案内しています。
（東高野街道と同じものです）

　また、元の道を進むと「蓑の辻」で竹内街道と交差し、古市街道はここで終わります。東高野街道はそのまま南へと延びて行きます。辻には大きな道標が立っています。

西面	北面	南面	東面
上の太子　たゑま　すぐ　高野山 左　大和路 つぼう坂　大峯山　金剛山	右　大坂　すぐ さかひ	嘉永元年　京都 井筒屋 戊申九月　九兵衛建	古市蓑の辻　補助　森田知英

古３０

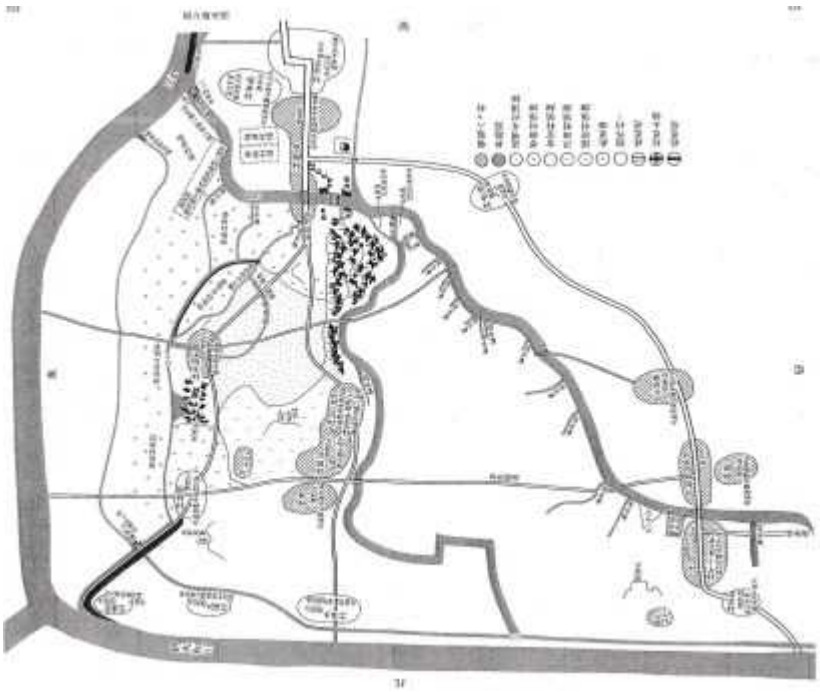
⑬　竹内街道と東高野街道の交差点、そして古市街道の終点（大坂街道の出発点）通称「蓑の辻」に立ち、両街道に残る道標のなかでは最も大きく、彫りも深い。嘉永元（1848）年九月に、京都の米問屋井筒屋と古市の豪農森田氏により建立された。文面から見ると、道明寺方面から東高野街道を南進、あるいは堺方面から竹内街道を東進してきた旅人を対象にしたものと考えられる。「すぐ高野山・金剛山」とは、まっすぐに東高野街道を南下するという意味である。
（東高野街道と同じものです）

　ここで古市街道（大坂街道）は終点となりますが、津堂から古市まで色々な街道名が出てきました。馬街道・長尾街道・和刕（州）街道・巡礼街道等。また、同じ道を重複する区間があちこちに存在していることもお解り頂けたと思います。

　古市街道（大坂街道）の散策はこれで終了します。次回は巡礼街道をご紹介します。最後に津堂村から、小山村、岡村、藤井寺村、野中村、誉田村、古市村までの道筋が記載されている「道明寺村と王水樋組七ケ村水論絵図」を添付します。
文政３年（1820）作成絵図です。大まかですが全体の様子が良く分かると思います。

赤の太線で描かれているのが古市街道（大坂街道）です。

藤井寺市史十巻



碓井村内の石川に王水樋が設けられ、八ケ村内に計 20 の「用水樋・取水溝・悪水樋」などが設けられたものであり、前述の大乗川もまたその分水の一つとなっていた。「奈良街道（長尾街道）・高野街道」などの道と、八ケ村の若干の村々が記載され、彩色も美しく、極めて出来のよい絵図の一つである。

（2024.5　中村）